

JADTA News

No. 69

2006年1・2・3月号

第14回札幌大会報告

第14回札幌大会を終えて

大会実行委員長 葛西俊治
札幌学院大学人文学部臨床心理学科

平成17年9月2日の大会前夜祭を皮切りに、9月3日(土)、4日(日)の3日間、札幌学院大学にて第14回大会が開催されました。準備に際してお力添えを頂いた方々、大会運営にご尽力いただいた方々、そして、はるばると北海道までお出でいただいた多くの参加者の皆様、そして理事の皆様に心からお礼申し上げます。

大会に至る準備はそれなりに進んでいましたが、その間に協会初代会長の梅田先生がご逝去されたという訃報が届きました。その後のニュースレターが梅田先生追悼号として発行されたこともまだ記憶に新しく、第一回大会後の梅田先生のお姿を思い起こし本当に残念に思うと共に、回を重ねて十四年目となる今大会がより充実した集まりになるようにと念じておりました。

大会は前夜祭のイベントから始まりました。従来、前夜祭といったイベントはあまりなかったようですが、その趣旨は、土曜日に発表される方は前日の金曜日には到着されるのでせつかくの機会を是非充実したものに、ということでした。また、1980年代から先駆的なボディワーク「竹内レッスン」を行ってきている竹内敏晴先生にワークショップ指導をご快諾いただけたことも大きな理由でした。

前夜祭では、アイヌ刺繍・アイヌ舞踊家の小田智

子さんのトークがあり、当初、参加者は十数名程かなと見積もっていましたが、40-50名の方がどこからともなく集まり始めました。熱気に包まれる中、北海道先住民族のアイヌとして生まれ、生活し、そして踊る小田さんの言葉に涙を流して聞き入っている方もおられました。引き続き、舞踏ビデオ「偶成天」公演映像の上映会に行われ、夜の八時からは札幌学院大キャンパス前庭にて、舞踏家・竹内実花を含めて三名の女性舞踏手によるイベントがスタートしました。竹内ワークの参加者だけではなく、学生や数名の子どもも含めて50-60名ほどの人たちが、一人また一人と白い布を掛けられて踊り始めたり、馥郁たる香りの緑の芝生に寝ころんだりなど1時間近くも不思議な時空に遊んだようでした。(この前夜祭の様子は地元紙・北海道新聞に大きく取り上げられ、ダンスセラピーの理解と普及に貢献することとなりました。)

さて、いよいよ大会当日…となりますが、実は二日間の大会は当初から大きな問題を抱えていました。それは、二千人が参加するという児童虐待防止の全国大会が同じ期日に当大学にて開催されることが、かなり遅い

69号もくじ

札幌大会を終えて	1
理事会報告	3
総会報告	5
大会参加報告	10
第3回研修講座報告	20
第4回研修講座のお知らせ	22
お知らせ	24
研究会報告	24
インフォメーション	24

時期に判明したためです。会員の皆様の中には「大会案内がなかなか届かない…」とご不満の向きもあったことを重々承知しておりましたが、虐待防止の大会は 2000 人が参加する各種分科会を大学全体を借り受けて運営する予定だったため、そちらの運営担当者と大会会場の詳細、スケジュール内容について折衝を繰り返していたのが実情でした。

それにも関わらず無事に大会初日を迎え、大学正門には「全国児童虐待防止…」と共に「日本ダンス・セラピー協会第 14 回大会」の立て看板が堂々と立っているのを見たとき、虐待でのつらい体験や PTSD やトラウマの中にある子ども達も、ダンスムーブメントセラピーのアプローチによって、いつかどこかで暖かく豊かな体験を得てほしいと思ったものでした。

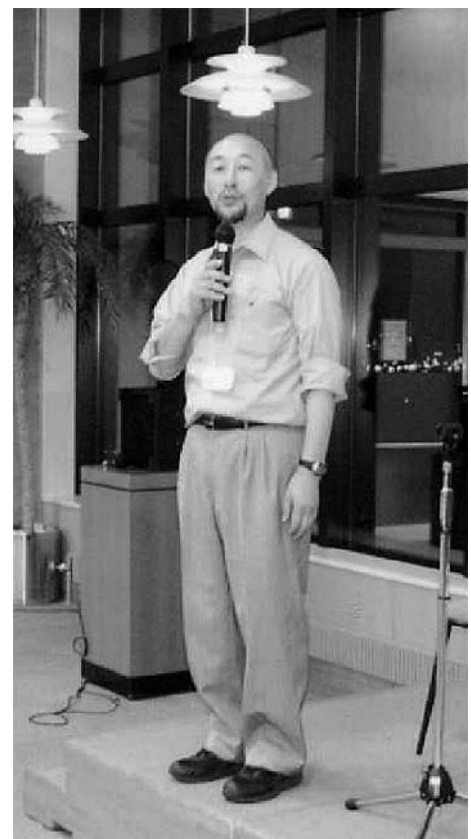
大会初日のあるワーク発表のためにテッシュペーパーを 60 箱用意していたのですが、何と追加で 48 箱、合計 108 箱という因縁めいた数字から大会が始まりました。全部で 15 件となったワーク発表形式のプログラムは、特に滞ることもなく、大きな動きと豊かな笑い声があるかと思えば、静謐な雰囲気の中で深く静かに身心を探る発表もあり、順調に進んでいきました。こうした実践形式の発表が存在する一というだけでも、初めて参加した方や本学の臨床心理学科の学部生・院生(大会スタッフ)には極めて貴重な場となりました。また、五件の口頭発表に初めて出会った参加者達は、ダンスムーブメントセラピーという領域での実践と研究とに接してそれぞれに感慨が深かったようです。また、幅の広い口頭発表内容を束ねてディスカッションまでご担当いただいた発表室の座長の方々には感謝の言葉もありません。この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

特別企画として開かれた「竹内敏晴座談会」では、「からだとことば」という竹内先生のテーマが「からだ」と「ことば」ではなく、「ことばとして開かれていくからだ」あるいは「からだが語ることば」という身心一体のことであることが明確に語られました。ダンスムーブメントセラピーの一端に携わる私たちが、どこまで自らの身心を耕しているものなのか…。そのことを深く問いかけられた時間だったと思います。以前「ワークでは命を手渡している…」と語られた竹内敏晴先生に、今年は 80 歳という年齢にて精力的にワークをご指導いただいたこと、「からだとことば」そして踊ることについて語

っていただけたことに深く頭を垂れるばかりです。

札幌の夜景を眺めながらの懇親会の場にて、迫力のある踊りで参加者と運営スタッフを大いに楽しませていただいた大野芳義先生が、来年、福島での大会をご担当されます。札幌から大会のバトンをお渡しいたしますので、みなさん、次回は福島でお会いしましょう！

* 末尾になりましたが、大会の準備と運営に際しては特に札幌ダンスセラピー研究所のスタッフならびに会員の皆様、本学臨床心理学科と学生・院生の協力を得ました。心からお礼を申し上げます。



理事会報告

平成 16 年度、日本ダンス・セラピー協会の理事会が開かれましたので報告します。

日時：平成 17 年 9 月 2 日（金）18:00-20:00

場所：札幌学院大学（北海道江別市）

出席者（五十音順、敬称略）：大野芳義、大沼幸子、葛西俊治、鹿島有子、鹿島由起、斉藤葉子、崎山ゆかり、清水美和子、林 信恵、平井タカネ、堀切紋子、町田章一、山中克己、渡辺明日香（14 名）

欠席者（五十音順、敬称略）：荒川香代子、岩下 徹（副会長）、尾久裕紀、鍛冶美幸、神山五郎、城石明喜子、神宮京子、照屋 洋、平田豪成、英二三枝子（会長）、星野 仁、増田 明、松原 豊、望月健司、山岡有美（15 名）

議題 1 第 14 回総会で討議する議題について

（1）平成 16 年度事業報告：以下の項目について、担当の理事を中心に報告が行われ、討議された。詳細は「第 14 回総会報告」（5 ページ）を参照。

- 1) 理事会を 1 回（平成 17 年 9 月 2 日）開いた。（町田章一理事、事務局長）
- 2) 第 13 回総会大会（東京）を開いた。（鹿島由起大会会長、理事）
- 3) 協会誌『ダンスセラピー研究 第 5 号』を編集集中。（山中克己理事）
- 4) 機関誌『JADTA News』を 5 回（No. 63～No. 67）発行した。（星野仁理事欠席により町田が代行）
- 5) ホームページを維持管理した。（葛西俊治理事）
- 6) 研究会を 11 回（第 120～130 回）開いた。（大沼幸子理事）
- 7) 資格認定事業。今年度の資格認定申請者は 4 名であった。（平井タカネ理事、大沼幸子理事、崎山ゆかり理事）
- 8) 研修講座事業。第 1 回を堀切紋子理事、第 2～3 回大沼理事が担当した。（堀切紋子理事、大沼幸子理事）
- 9) 国内国外の活動。例年通り、活発な活動があった。ADTA 大会がニューオリンズで開かれ、町田事務局長、永井会員、後藤会員らが参加した。（町田理事）
- 10) 事務局の近況。（町田理事）
担当者：平田豪成（常務理事）、高山昌司（事務

局長）、平嶋真維子（総括）、田中英里（会計）、柴田（事務連絡）

（2）新入会会員、退会会員の報告

1) 新入会会員

31 名（5 ページ参照）の入会希望者が紹介され、審議の後、入会を許可された。新入会会員の数は昨年度（16 名）の約 2 倍であった。また、再入会者が 3 名あったことも今年度の特徴である。

2) 退会会員

1 名（5 ページ参照）の退会希望者が紹介され、審議の後、退会を了解された。これにて、現在の会員数は 295 名（265+31-1）になった。

しかし、実質的な会員数は、会報郵送数（2 年以上会費を滞納した会員は除く）が参考になる。最近の会報郵送数は 160 前後である。（5 ページ参照）

（3）平成 16 年度会計報告、会計監査報告

望月健司理事（会計担当）から会計報告資料（6 ページ）が提出され、町田事務局長が報告した。渡邊由起監事、堀切紋子監事による会計報告がなされた。）

また、日本ダンス・セラピー協会の資産内容（平成 17 年 9 月 2 日現在）について町田事務局長から説明があり、了解された。（6 ページ参照）

（4）平成 17 年度事業計画、及び、予算案

- 1) 協会誌発行について（山中克己理事）
- 2) 会報発行（星野仁理事、町田章一理事、崎山ゆかり理事）
- 3) ホームページ維持管理（葛西俊治理事）
- 4) 研究会（大沼幸子理事）
- 5) 資格認定事業（平井タカネ理事、崎山ゆかり理事、大沼幸子理事）
- 6) 研修講座事業（大沼幸子理事）
- 7) 梅田美知恵様寄贈金の使途（町田章一理事）
理事会報告の（7）を参照。
- 8) その他

* ホームページから入会手続きができるようにならないか、検討中。

* 協会独自の収益事業を検討中。例：①資料集 ②ビデオ ③T シャツ

また、「JADTA 予算出費に関する基本的考え」について町田事務局長が説明し、了解された。

◆◆ JADTA 予算出費に関する基本的考え ◆◆

本協会では理事などの活動に対する報酬は原則として出していないが、次の事業については人件費等の支出を認めている。

(1) 理事会会議費：

①大会直前に開くことを原則とし、会議室借用料と参加者の夕食代金の実費。

②大会直前以外に、1回開催するための、参加者の交通費と宿泊費の一部。(昨年度に引き続き、16年度も不可能であった)

(2) 事務局長秘書経費：1時間につき1,000円。

(3) 学会誌編集費：年度予算に計上。

(4) 学会誌編集会議の交通費：1号につき1回分の実費。

(5) 会報編集費：編集者3人に対し、1号につき各10,000円。

(6) ホームページ維持管理費：1年間につき20,000円

なお、人件費等の支出を計上する事業は「会員全員が受益するもの」で「独立採算が困難であるもの」に限定し、以下の4事業は今後とも独立採算を原則とする。①年次大会 ②月例研究会 ③資格取得のための講習会 ④資格認定事業。

(5) 第16回総会大会会長の選出

平成18年に開かれる予定の第15回大会の大会長については、大野芳義理事が決まっている。(JADTA News No. 66, p. 4 参照) 平成19年に開かれる予定の第16回大会の大会長について互選した結果、山中克己理事が選ばれ、総会にて紹介することになった。

◆◆◆ JADTA 大会会長と開催地 ◆◆◆

第1回 1992 町田章一 (東京)

第2回 1993 平田豪成 (京都)

第3回 1994 斉藤葉子 (山形)

第4回 1995 松原 豊 (東京)

第5回 1996 城石明喜子 (福岡)

第6回 1997 平井タカネ (奈良)

第7回 1998 星野 仁 (東京)

第8回 1999 清水美和子 (富山)

第9回 2000 菅野紀子 (秋田)

第10回 2001 平田豪成 (東京)

第11回 2002 増田 明 (大阪)

第12回 2003 荒川香代子 (岡山)

第13回 2004 鹿島由起 (東京)

第14回 2005 葛西俊治 (札幌)

第15回 2006 大野芳義 (郡山)

(6) 当協会会員に対して特定の宗教の勧誘活動を継続して行い、勧告にもかかわらず、それを中止しない会員2名を除名処分にする件。

事務局長により、①上記の件について協会に寄せられた苦情、②当事者に対する事実確認の経過、③当事者と協会(事務局長他)との協議の経過が述べられ、④「めいわく行為(非社会的行為)11項目」と「協会が受けている迷惑4項目」が示された。そして、⑤除名の提案があり、除名の内容が示された。その上で⑥慎重審議され、その中には当事者二人の釈明の機会も与えられた。⑦採決が行われ「賛成」が11名、「棄権」が2名であり、賛成多数で除名が決議された。当事者2人は理事であったので、この時点で理事会会場から退席した。

なお、善後策として、除名を①総会で報告すること。②会員全員に書面にて緊急報告すること。③会報で報告することにした。また、来年の次期総会までに宗教活動禁止条項等を含めた「会則の改正案」を提出することにした。

(7) その他

日本ダンス・セラピー協会は、平成17年7月1日付けで、梅田美知恵様(梅田忠之初代会長夫人)から300万円の寄付を受けた(JADTA News No. 67, p. 2 参照)。その用途について審議の結果、「梅田忠之記念基金」という名称で預金し、将来の必要に備えることにした。

以上

(日本ダンス・セラピー協会 事務局担当理事：町田章一)

総会報告

平成 17 年 9 月 2 日（金）13:00～14:15、札幌学院大学において、第 14 回総会が開かれた。議長は葛西俊治理事（第 14 回総会大会会長）、副議長は大野芳義（第 15 回総会大会会長）であった。

総会に先立ち、梅田忠之初代会長の冥福を祈り、1 分間の黙祷を捧げた。

議題 1 平成 16 年度事業報告

- (1) 理事会を 1 回（平成 17 年 9 月 2 日）開いた。（町田章一理事、事務局長）
- (2) 第 13 回総会大会（東京）を開いた。参加者 107 名で、成功裏に終了した。詳細は JADTA News No. 65, 1-25 参照。（町田事務局長）
- (3) 協会誌『ダンスセラピー研究 第 5 号』を編集。論文の数が十分に集まっていなかったために発行が遅れている。（山中克巳理事）
- (4) 機関誌『JADTA News』を 5 回（No. 63～No. 67）発行した。なお、64 号は米国 ADTA 国際委員会での各国代表による発表要旨集（英文）である。（星野仁理事欠席により町田が代行）
- (5) ホームページを維持管理した。（葛西俊治理事）アドレスが <http://www.jadta.org> となった。
- (6) 研究会を 11 回（第 120 回～130 回）開いた。（大沼幸子理事）
- (7) 資格認定事業。今年度の資格認定申請者は 4 名。（平井タカネ理事、大沼幸子理事、崎山ゆかり理事）
- (8) 研修講座事業。第 1 回を堀切紋子理事、第 2～3 回大沼理事が担当した。詳細は JADTA News No. 66—67。（堀切紋子理事、大沼幸子理事）
- (9) 国内国外の活動。例年通り、活発な活動があった。ADTA 大会がニューオリンズで開かれ、町田事務局長、永井会員、後藤会員らが参加した。（町田章一理事）
- (10) 事務局の近況。（町田章一理事）
担当者：平田豪成（常務理事）、高山昌司（事務局長）、平嶋真維子（総括）、田中英里（会計）、柴田（事務連絡）

議題 2 新入会会員、退会会員

理事会で入会を承認された「新会員リスト」「退

会リスト」が読み上げられ、会員に報告された。

(1) 新入会会員 31 名

新入会会員の数は昨年度（16 名）の約 2 倍である。★は再入会者

田中美智子（飯田市）、平山久美（牧方市）、松村妙子（小平市）、湊祐典（横浜市）、木山ロリンダ（東京都世田谷区）、関亜希子（東京都中野区）、岩田銀子（札幌市）、河合利香（東京都足立区）、森山隆則（札幌市）、二藤部陽子（さいたま市）、秋葉睦子（成田市）、中村聖知子（東京都板橋区）、秋本早苗（さいたま市）、山川直美（東京都世田谷区）、西銘春香（東京都杉並区）、小林良子（東大阪市）、西尾眞美代（各務原市）、加藤千恵子（大分市）、後藤浩子（さいたま市）、★秦野旬子（逗子市）、原田広美（東京都文京区）、野口実華（美濃加茂市）、長谷川弥生（東京都渋谷区）、高橋実（福山市）、★後藤祐子（川崎市）、安田友紀（堺市）、高橋弘子（千葉市）、★鎮目久美子（大和郡山市）、浦江千幸（さいたま市）、中野加奈子（福岡市）、こかちちかこ（西尾市）

(2) 退会会員 1 名

久湊尚子（新湊市）

会員数は 295 名（265+31-1）になった。しかし、実質的な会員数は、会報郵送数（2 年以上会費を滞納した会員、転居先不明者は除く）が参考になる。

JADTA News 郵送会員数の推移

会費納入状態	JADTA News		
	65 号	66 号	67 号
14 年度まで	17		
15 年度まで	17	15	12
16 年度まで	125	111	44
17 年度まで		26	106
合計	159	152	162

議題 3 平成 16 年度会計報告、会計監査報告

望月健司理事（会計担当）から会計報告資料（次ページ参照）が提出され、町田事務局長が報告した。堀切紋子監事による会計監査報告の後、了承された。

日本ダンス・セラピー協会 平成 16 年度会計報告
(平成 16 年 7 月 1 日～平成 17 年 6 月 30 日)

< 収入 >

繰越金	630,488 円
入会金	62,000 円
年会費	899,500 円
利子	0 円
売上	91,280 円
計	1,683,268 円

< 支出 >

通信費	19,980 円
事務消耗品費	4,410 円
ビデオ製作費	70,000 円
印刷・製本費	334,105 円
報酬費(会報編集費)	120,000 円
報酬費(秘書経費)	113,000 円
報酬費(各種手数料)	4,200 円
会議費	65,641 円
HP維持費	30,681 円
交通費	0 円
繰越金	921,251 円
計	1,683,268 円

監査の結果、適正妥当なものと認めます。

平成 17 年 8 月 15 日
監事 鹿島由起 印
監事 堀切紘子 印

- (1) 梅田美知恵様(梅田忠之先生の奥様)から寄贈された 300 万円(JADTA News No. 67, p. 2 参照)は、平成 17 年 7 月 1 日付けのため、来年度の収入に計上される。
- (2) 入会金の収入が大幅に増えたのは、入会金値上げと入会者の増加(昨年の約 2 倍)による。
- (3) 年会費の収入は会費督促(滞納会費の回収も含む)をした 16 年度(978,000 円)をわずかに下回った。本年度の年会費収入には滞納会費分の比率が少ないので、ほぼ当協会の会費収集能力を示していると考えられる。
- (4) 平成 16 年度は雑誌を発行しなかったため、その分の出費が無い。

- (5) 平成 17 年 6 月 30 日現在では 921,251 円の繰越金があるが、8 月 16 日現在までに、事務局長立替分切手代(15,400 円)、事務局長立替分封筒代(210 円)、事務局長立替分梅田先生お花代(15,750 円)、会報編集報酬費(150,000 円)、事務局長秘書経費(64,000 円)、大会基金から借用した印刷代金返却(367,500 円)、事務局立替分切手代(14,400 円)、計 627,260 円の支出がすでであり、残金は 293,991 円である。

◆◆◆ 日本ダンス・セラピー協会の資産
(平成 17 年 9 月 2 日現在) ◆◆◆

番号 名称【管理者】、金額(確認日)

1	日本ダンス・セラピー協会事務局【会計担当理事】	921,251 円(6/30 付)
2	JADTA 大会基金【事務局長】	526,521 円(5/19 付)
3	JADTA 資格認定委員会(資格認定関係)【委員長】	134,302 円(9/2 付)
4	JADTA 資格制度委員会(講習会関係)【委員長】	414,551 円(9/2 付)
5	JADTA ホームページ管理者【担当者】	29,000 円(9/2 付)
6	梅田忠之記念基金【会計担当理事】	3,000,000 円(7/1 付)
合計		5,025,625 円

「年次大会」と「月例研究会」は独立採算で行っています。

議題 4 平成 17 年度事業計画、及び、予算案

- 1) 協会誌発行について(山中克己理事)
- 2) 会報発行(星野仁理事、町田章一理事、崎山ゆかり理事)
- 3) ホームページ維持管理(葛西俊治理事)
- 4) 研究会(大沼幸子理事)
- 5) 資格認定事業(平井タカネ理事、大沼幸子理事、崎山ゆかり理事)
- 6) 研修講座事業(大沼幸子理事)
- 7) 梅田美知恵様寄贈金の使途(町田章一理事)
- 8) その他

* ホームページから入会手続きができるようにならないか、検討中。

* 協会独自の収益事業を検討中。

例：①資料集 ②ビデオ ③T シャツ

議題5 第16回総会大会会長の選出

平成19年に開かれる予定の第16回大会の大会長として、山中克己理事（愛知県）が推薦され、承認された。なお、平成18年に開かれる予定の第15回大会の大会長については、大野芳義理事が決まっている。JADTA News No. 66, p. 4 参照。

議題6 当協会会員に対して特定の宗教の勧誘活動を継続して行い、勧告にもかかわらず、それを中止しない会員2名を除名処分にする件。

事務局長から、上記に関する理事会での審議過程が報告され、鹿島有子会員と鹿島（渡邊）由起会員が除名されたとの報告があった。

議題7 その他

日本ダンス・セラピー協会は平成17年7月1日付けで梅田美知恵様（梅田忠之初代会長夫人）から300万円の寄付を受けたが（JADTA News No. 67, p. 2 参照）、その使途については、「梅田忠之記念基金」という名称で預金し、将来の必要に備えることにしたい旨、町田事務局長から提案があり、承認された。

以上

（日本ダンス・セラピー協会 事務局担当理事：町田章一）

総会終了後に以下のような報告が全会員に郵送された。

平成17年9月3日

日本ダンス・セラピー協会

会 員 各 位

日本ダンス・セラピー協会

会長 英二三枝子

除名のご報告

平成17年9月2日（金）に開かれた理事会において、下記の者二名の「除名」が発議されました。慎重審議の結果、平成17年9月2日付けで除名し、9月3日の総会において報告しましたので、総会に欠席した会員を含め、全会員に報告します。

記

1 被除名者氏名

鹿島有子、鹿島（渡邊）由起

2 除名理由

日本ダンス・セラピー協会会員に対して特定の宗教の勧誘活動を継続して行い、勧告にもかかわらず、それを中止しないため。

3 除名内容

- (1) 日本ダンス・セラピー協会会員の資格を剥奪する。
- (2) 日本ダンス・セラピー協会の活動に非会員として参加することを拒否する。
- (3) 日本ダンス・セラピー協会への再入会は認めない
- (4) 日本ダンス・セラピー協会が認定した資格は取り消す。

以上

平成 16 年度予算額と決算額、17 年度予算額

16 年度（平成 16 年 7 月 1 日～平成 17 年 6 月 30 日）

17 年度（平成 17 年 7 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日）

※総会で配布したものにケアレスミスがありましたので訂正してあります。会計報告には影響ありません。

<収入の部>

項目	①16 年度予算額	②16 年度決算額	②-①	③17 年度予算額	③-①
繰越金	630,488	630,488	0	921,251	290,763
入会金	15,000	62,000	47,000	90,000	75,000
年会費	1,400,000	899,500	-500,500	1,000,000	-400,000
利子	0	0	0	0	0
資料販売	100,000	91,280	-8,720	100,000	0
雑収入	20,000	0	-20,000	10,000	-10,000
寄付	0	0	0	0	0
合計	2,165,488	1,683,268	-482,220	2,121,251	-44,237

<支出の部>

備品費	0	0	0	0	0
事務用品	10,000	4,410	-5,590	5,000	-5,000
消耗品	5,000	0	-5,000	5,000	0
通信費	150,000	19,980	-130,020	20,000	-130,000
印刷製本費(会報)	400,000	334,105	-65,895	400,000	0
印刷製本費(雑誌)	—	0	0	400,000	400,000
報酬費(会報編集等)	1,152,350	120,000	-1,032,350	120,000	-1,032,350
報酬費(雑誌編集費)	—	0	0	120,000	120,000
報酬費(秘書経費)	—	113,000	113,000	64,000	64,000
報酬費(各種支払手数料)	6,890	4,200	-2,690	5,000	-1,890
HP 維持費	—	30,681	30,681	30,000	30,000
会議費	200,000	65,641	-134,359	70,000	-130,000
交通費	0	0	0	0	0
ビデオ購入費	70,000	70,000	0	70,000	0
予備費	100,000	0	-100,000	150,000	50,000
繰越金	71,248	921,251	850,003	300,000	228,752
合計	2,165,488	1,683,268	-482,220	1,759,000	-406,488

平成 15 年度決算報告

(平成 15 年 7 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

※この決算報告は一昨年の大会で承認されましたが、編集上の手違いで会報に掲載しなかったため、ここに掲載します。

<収入の部>

項目	①15 年度予算額	②15 年度決算額	②-①	③16 年度予算額	③-①
繰越金	622,281	622,281	0	630,488	8,207
入会金	15,000	15,000	0	15,000	0
年会費	1,000,000	978,000	-22,000	1,400,000	400,000
利子	10	2	-8	0	-10
資料販売	100,000	98,000	-2,000	100,000	0
雑収入	10,000	12,000	2,000	20,000	10,000
寄付	500,000	500,000	0	0	-500,000
合計	2,247,291	2,225,283	-22,008	2,165,488	-81,803

<支出の部>

通信費	150,000	121,652	-28,348	150,000	0
事務用品	50,000	10,085	-39,915	10,000	-40,000
消耗品	5,000	0	-5,000	5,000	0
印刷製本費	330,160	367,364	37,204	400,000	69,840
報酬手数料	1,152,350	560,195	-592,155	1,152,350	0
備品費	0	0	0	0	0
会議費	160,000	183,079	23,079	200,000	40,000
ビデオ制作費	0	340,000	340,000	0	0
ビデオ購入費	180,000	0	-180,000	70,000	110,000
支払い手数料	6,890	0	-6,890	6,890	0
予備費	100,000	12,420	87,580	100,000	0
繰越金	112,891	630,488	517,597	71,248	-41,643
合計	2,247,291	2,225,283	-22,008	2,165,488	-81,803

監査の結果、適正妥当なもの認めます。

平成 16 年 8 月 25 日

監事 鹿島由起 印

監事 堀切紋子 印

大会参加報告

大会プログラム (◎ワークショップ、○口頭発表)

9/3

- ◎松永のぶこ「からっぽになる」
- ◎崎山ゆかり「ステップアップ体操を活かした相互交流を目指すセッションー 身体の近接からふれあいへー」
- ◎吉田留幾子「自己調整と自己表現のインプロヴィゼーション」
- ◎吉村節子「ヘルスケアとしてのダンス・ムーブメント」
- 成瀬九美「身体表現のグループワークにおけるイメージコミュニケーションの成立過程(2)ー 表現役割とコミュニケーション能力との関連性についてー」
- 高橋実、金川昌恵「子育て支援におけるダンスセラピーの活用とその効果についてー 英二式ダンスセラピーをもちいてー」
- 林信恵、北島順子「ダンス・パフォーマンス経験における自尊感情と不安傾向の関係」

9/4

- ◎稲川麻子、鈴木真美「イメージで心と体のリラクゼーションー 空気を感じて流れを感じてー」
- ◎北島順子「ムーブメントを用いたリラクゼーションプログラムの試みー ライフキャリアデザイン教育への導入ー」
- ◎堀切綾子「からだ動く・こころ動く／こころが踊る・からだは踊るー そうか！誰でも踊れるんだ！！ー」
- ◎貴船恵子「出会いと別れがあなたにもたらすもの」
- ◎竹内実花「精神科ディケアにおけるリラクゼーションを中心としたダンスセラピーの試み」
- ◎照屋洋「こころとからだのレッスンー 今、子供たちのからだに起こっていること」
- ◎高見知英美、鈴木良枝「ダンスに何ができるかー 小金井病院での実践報告」
- ◎林麗子「からだを感じる、わたし、あなた、つながり」
- 鎮目久美子、林信恵「ボディートーク実践における心理的効果について」
- 後藤美智子「マリアン・チェイスによるダンスセラピー実践ー 実践の中で大切にされた考えとは何かー」

参加報告

松永のぶこ「からっぽになる」

『ティッシュを出してからっぽになりませんか』この言葉に驚き、絶対参加したい、と楽しみにしていた第10回東京大会。しっかり参加させて頂き、余韻が抜けないあまりに感想まで書かせて頂きました。それから4年、またティッシュしたいとの思いが叶い、また感想まで書かせて頂いています。

<からっぽになる>のワークは、実は逆に、出てくるものが多く、90分では収まりきれないのが困りものです。

前回私は、「辛いから隠しているもの」が出てくるのだと思い込んでいて、結局、何もみつからなかったという失敗をしました。前回の事が失敗だったと気付いたのは、4年越しの今回のワークを通してでした。今回、次々と出て来るティッシュは、私にはダンスダンスダンス...と感じられ、何だかダンスばかりやなあ、とにこやかで幸せな気持ちが湧いて来ました。

その後は、ティッシュが緩衝役となり久しぶりにお会いした方々、初めてお会いする方々と、まるやかなコミュニケーションが出来ました。ティッシュ＝ダンスが、コミュニケーションを助けてくれる...。それは、<ダンス イズ コミュニケーション イン ワンダーランド>という私のコンセプトと通じるような気がして、私がティッシュのワークに惹かれる理由がわかったように思います。

ティッシュの山に埋もれて撮って頂いた写真は芸術的にも見え、不思議に素敵です。

出会う度に、違った感覚を下さるワークでした。私は、これから先もずっとティッシュを求め続けると思います。おそらく、幸せばかりではない物にも、向き合う事になると感じます。ただ、またいつかティッシュがしたいのです。

松永先生、素敵な出会いをありがとうございます！！

そしてワークで一緒できた皆様にも心から感謝致します。ありがとうございました！！(吉田

るいこ
累幾子)

集中ワークショップを除くと最初のワークショップのためか、期待と緊張と多少のよそよそしさが

漂う空気の中「からっぽになる」は始まりました。予想外に参加者が多かったらしく、お手伝いの学生さん達がスコッティティッシュを買いに走ります。

一人3箱ずつ、音楽に合わせて、けして止まらずにティッシュを引き出し続けること。

「スタート！」 「ただティッシュをひっぱり出してなんになる……」 「…… もったいない……」 (分かち合いの時も同じような意見が出されていました) と雑念が交錯します。それでも手は止められません。ティッシュがどんどん湧いて出て来ます。そして頭の中もあたり一面のティッシュのようにまっ白に…… 広～くふんわりしてきました。皆にひっぱり出されたティッシュの山が出来上がり、部屋に射し込む陽に反射してキラキラ輝いています。「ティッシュと同じように動いてみましょう」「ティッシュの山の中にもぐってみませんか…… なあんちゃって」深刻になり過ぎないように発表者の松永さんが軽妙に皆をリードしていきます。

2回目も合わせて5箱ものティッシュを引き出したのは貴重な体験でした。

ティッシュと同じようにふんわりして、ティッシュボックスと同じようにからっぽになった珍しい自分を、私としてはもう少しゆっくり一人で味わいたかった気がしました。また、遅れて参加された方々との温度差も少し気にかかるころでした。(児玉栄子)

崎山ゆかり 『『ステップ体操』を活かした相互交流を目指すセッション 一身体の近接からふれあいへー』

今回、この『ステップアップ体操』のワークショップに参加してみて、個人でも大人数でも行うことができ、相互交流や運動週間の定着にもつながるこの体操について、私の感想を述べたいと思います。

まず、奈良県で開発されたということで、奈良県の郷土・伝統である鹿や大文字、大仏といった奈良県独自のものを動きに取り入れており、次の動作が連想しやすく覚えやすかったです。鹿の動作をしてくださいと説明しても、「角は指2本か3本か？」と自分の動作に固執する人もいらっしゃるのですが、こだわりは持たず自分なりの鹿を表現してよいという先生の考えを聞き、自分を含め周囲の参加

者の方の様子を観察してみると、各々が個性あふれる鹿を表現しており、ラジオ体操にはない独創性があると感じました。

また、独創性があるだけでなく、一つ一つの動きが身体機能の促進向上という意味を持ったものでした。例えば、能のすり足歩きを取り入れた動きでは、「これは脚のバランスを向上させる運動だ」という意識で体操を行うのと、「これは能の動きだ」という意識で行うのでは、動きに対する感じ方に相違があります。もちろん、前者のようにどの部位での筋力を高めていると意識しながら体操を行うことができれば、確かに効果的ですが、それができない人や動作に制限がある人にとっては、後者のようにイメージから連想して行えば親しみも持てるし、体操に抵抗がある人でも難しく考えずに参加しやすく、知らないうちに身体機能を高めることができるというように、大変効果的だと学びました。

さらに、ジャンプがない、下半身中心的であるといった工夫もあり、このステップアップ体操を毎日行えば難無く筋力の維持向上ができる、まさに理想的な体操だと感じました。

そして、この体操を行うことで私が一番尊重すべきだと思ったことは、相互交流の促進という面で多くの人と時間を共有できるということです。形式ばった動きを強制されても、誰も楽しむことはできません。動きに見合った音楽を用い、みんなで楽しみながら体を動かすことで自然と笑顔があふれてきます。今回はペアになって行う体操はできませんでしたが、きっと楽しいと思います。このように、様々な要素が含まれる体操を、自分ができる範囲で自分のペースで段階的に高めていくことのできる、まさに心とからだの「ステップアップ」につながる体操だと思いました。心身共に有意義になれる講義でした。(出岡智美)

私は音楽療法を学んでいる学生で、高齢者を対象に実習に行っているのですが、ステップアップ体操の特徴である動きを身近な文化的イメージと結びつけ、動きを覚えやすくするといったところがとても勉強になりました。実習のセッションの中で音楽を使って身体を動かしてもらおうということがあるのですが、やはり高齢者の方は動きをすることも覚えることもとても大変そうなのです。そういう時に、少し「この動きは〇〇のようですね」と言ってあげることによってイメージしやすくなり動きもしやすくな

るのではないかと思いました。私自身実際感じたのですが、「しなやかなそうめん」の時、イメージをする事で全員の動きに固さがなくなり、イメージに動きを委ねるように動きが自然になり、なめらかになっていました。また、伴奏に注目したのですが、動きをイメージした言葉に沿ったもので、動きの各々でテンポ、音階、調、曲想が変化していました。その音楽が実際体を動かす時にとっても合っていたからか、音楽がなかった時よりもあった時の方が気持ちも高揚し、動きも大きくなった気がしました。特に印象に残ったのは「すり足歩き」の動きで崎山ゆかり先生がおっしゃった「能のような動きですね」という言葉と伴奏の五音音階で作られた音楽とで自分自身能を踊っているような心地になり、イメージが膨れ上がったように思えました。後半にした動きのミラーリング、グループでの動きを体験して感じたのは、前半での集団ではあるが一人で動いている時よりも笑い声が多くなったということです。何故そうなったのかと自分自身考えたところ、自分と誰かという中でコミュニケーションがそこに生まれ、ミラーリングでは間違ふことが笑いへとつながったところや、グループでの動きではテンポよく動きが変わっていく楽しさ、自然とグループの中で自分が確立され安心感が生まれ、自由に自分を出していけるといったところに答えがあるのではないかと思いました。自分以外の人と何か動きを創り出すといった一体感の面白さの中にも笑いの要素があったのかなと感じました。動くことで相互交流の促進がなされていることをとても実感しました。今日のワークショップを今後活かしていけるよう更に勉強に努めていきたいと思っています。(西田梨沙)

吉田累幾子「自己調整と自己表現のインプロヴィゼーション」

吉田累幾子さんのワークで、はじめにラベンダーの香りを全員に配ってリラックス効果をはかっていたところが、私はとても印象に残りました。なんとなく落ち着くような心持で始まった気がします。右腕左腕右足左足…と体の部分部分を一つずつ動かしていくことで、普段意識せずに動かしているところに気付いたりし、私ここが動かしにくいのだなと再発見したような気持ちになりました。そして動

かしにくい部分が他の部分の動きを誘導することで、少しずつ少しずつ動かしにくい場所の動きが改善し、他の部分と同じくらい動くようになっていることに気がつきました。なぜこのような感じがしたのか考えてみました。まず自分自身がどの場所を動かしにくいのかを自覚する。そして、その部分が他の体の部分を誘導していくことは、普段生活している中で体の動かし方とは全く逆になっている。とすれば、普段は動かしやすい体の部分の動きに動かしにくい体の部分が無理に合わせていることになる。そのせいで、動かしにくい場所はもっと動かしにくくなり、こりやくせへと変化してしまう。今回は動かしにくい場所から動かしやすい場所を動かしていくので、無理も生じず、改善したかのように感じたのではないかと考えました。この前半の調整では皆さんが一人一人の世界に入り、自分と向き合っていた時間だったように感じます。二つだけ気になったことがあるのですが、こんなことを言っているのかわからないのですが、一つ目は音楽の音量が大きすぎた部分があったように感じました。意識が自分へと集中し、自分と向き合うことができ、せっかく緊張や体がほぐれたところに音楽に気がそれてしまった部分があり、うまくワークに集中することができませんでした。音楽の力で緊張がほぐれ、自分の世界に入れた部分もあったので、バックで使う音楽の利用もかなり難しいところだと感じました。考え方によっては、初めから音楽を使わないほうがよりスムーズの進行するとも考えられるかもしれませんが、私は音楽によって緊張が和らげられる部分や音楽によって何か個人のイメージが強化され、調整の場合、自分をイメージしやすくなるとも考えられるのではないかと思いました。音楽の使い方について学ばなければいけないことがたくさんあるのだと考えさせられたように思います。二つ目は、団体だったから進め方がそうってしまったかもしれないのですが、まだ立ちたくないなまだ動きたくないなと思っているときにこうしましようと言われることで、また自然な自分が遠ざかっていってしまったように思いました。あの人数で一人一人に合わせることはできないし、こういったところも難しいところだと感じました。しかしワークのなかで人から逃げるといった動きや集まるといった動きを繰り返しているうちに集団の緊張がほぐれていき、他者とコミュニケーションがとれるようになっていったように思いました。私も誰かと動

きを共有することがたのしくなっていき、小さな社会がうまれているような気がしました。このとき音楽もアップテンポのものが使われていて、より気分が高揚し、他者とのコミュニケーションをとりやすくなっていたように感じました。(西田梨沙)

私は今回、吉田累幾子先生のワークショップに参加させていただき、まず最初にワークショップのタイトルに使われている“インプロビゼーション”という言葉に興味を持ちました。現在、大学で音楽療法について学んでいる私にとって、インプロビゼーションは音楽を学ぶ中でも重要なものです。音楽分野の中では、即興演奏やジャズ演奏の本質ともいえるべき、テーマをもとにしたヴァリエーション創造などの意味で用いられますが、今回のワークを体験して、ダンスセラピーにおいてもやはり即興性は不可欠なものであり、対象者に合わせてひとつのものから発展・工夫していくことは重要なのだと実感しました。

内容では、ラベンダーのアロマオイルを染み込ませたティッシュをひとり一つ持ち、手足のこりをほぐしていくことによって、身体的な刺激に加え嗅覚的な刺激の組み合わせを体験することができました。身体のコりを少しずつ丁寧に伸ばしたり回したりすることだけでも全身をほぐすことはできますが、リラックス効果があるというラベンダーを嗅覚刺激として取り入れることによって、身体刺激と嗅覚刺激における相乗効果が起こり、自分の呼吸や動きをさらに落ち着けることができ、本当にリラックスすることができました。私は音楽療法において、音による聴覚刺激のほかに視覚的な刺激や触覚的な刺激、さらに嗅覚的な刺激などさまざまな刺激の組み合わせによる反応の違いを調べてみたいテーマのひとつとして持っていますが、このアロマオイルを用いるという方法は、嗅覚的な刺激のひとつとしてとても参考になりました。ラベンダー以外のアロマオイルを用いて行えば、さらに違った効果が現れるだろうと思うと、とても興味をもてました。

また、こりをほぐす方法として右手、左手、右足、左足と一本ずつ回したり伸ばしたりを行っていたときに、ある発見がありました。私は普段肩こりがひどく、よく自分で揉んだり叩いたりしていますがあまり改善されず、マッサージに通ったこともありました。しかし、その時は改善されても、またすぐに肩こりになってしまいます。ですが、今回のワー

クを行ったあとはとても肩が軽く感じられ、以前よりも肩こりが緩和されました。今までは、身体をほぐすためには揉む・叩くという考えしか持っていませんでしたが、それだけではなく、回したり伸ばしたり力を入れて緩めたり、身体をほぐす方法はいくらかでもある、ということを教えていただきました。肩こりなど、身体がその人の状況を何らかの形で教えてくれているとき、それらに着眼点を持つことが大事なのだと改めて気づくと同時に、激しい運動でなくともゆったりと身体を使うことでも心や気分はすっきりできますし、さらにプラスしてラベンダーオイルを使うなど多種多様な方法が考えられると実感しました。

今後、音楽療法のセッションにおいても日常生活においても、一つの方法に囚われずさまざまなアプローチを考えられると再確認できました。また、期待していた以上の多くのものを学び取ることができ、自分の視野をとても広げることができたと思っています。吉田先生のように、ユニークな発想が思いつくよう、さらに自分のキャパシティを広げていきたいです。(出岡智美)

吉村節子「ヘルスケアとしてのダンス・ムーブメント」

からだほぐし、人間彫刻、ラテンスタイルのダンス(サルサとサンバ)の順に構成されたセッションは、心地よいピアノ曲の流れる空間で始まった。吉村さんの鈴のような声が、ピアノとマッチして心をなごませてくれた。からだほぐしは短時間であったが、指示言語の量は適切で、言葉に邪魔されずに身体感覚を味わいながら行うことができた。静寂の中でからだ場面になじむのを感じた。手の平、肘、膝、腰、お尻、足の裏を順に触れながら挨拶して歩く場面では、足の裏の挨拶が何故か面白く、自然に笑い声が起って会場ににぎやかになった(参加者は30人程度だったろうか)。

気持ちのほぐれたところで、近くの人とペアになり人間彫刻を行う。1人は粘土役、もう一人は彫刻家となる。吉村さんの提案した彫刻のテーマは「拡がる、閉じる、今の自分の状態」の3つで、彫刻家役の人はテーマからイメージするフォルムを、粘土役の人のからだを使って造らせていただく。一つのテーマでできたフォルムについて感じたことを互

いに話し合いながら、順に次のテーマのフォームを造って行く・・・。3つの作品造りが終わったら役割を交代する。

彫刻家の私は、自分のイメージが相手のからだで具現して行くのに不思議な快感を覚えた。特に、「苦しい歪な状態」だと思いながら造った今の自分の状態が、とても美しい姿に感じられて驚いた。彫刻になった粘土の人も「(この形は)新鮮な感じがする」と話された。「ああ、今の私は、これで良いのだ」と喉のつかえが降りる感じがした。ありのままの自分の姿をいとおしいと思えた。粘土役の時は、指1本の位置の違いで身体感覚が大きく異なることや、相手の今の微妙な心理状態をからだで感じる事ができてびっくりした。ペアになった人の感じたことをもう少し聞きたかったが、時間が足りず残念だった。

ラテンスタイルのダンスは衣装をつけてカーニバルの雰囲気で行った。吉村さんが多数用意して下さった金・銀に光る舞台衣装を着、ビニール製の傘袋で急遽手作りした「宝塚の羽根」を背中につけた。「羽根」の作り方はとっても簡単。皆で、わいわいがやがや言いながら7分で準備が終わった。羽根を腰や頭部につけている人もいた。

基本ステップを3つほど模倣した後、吉村さんの威勢の良いかけ声と躍動感のあるすばらしい動きに見とれて場面は一気に活気づいた。互いの姿から自然に笑いが巻き起こる中、ラテン音楽のリズムに乗って自由に思いっきり踊った。カーニバルのきらびやかさのために、恥ずかしさは全く感じず、動き、笑い、踊りまくった。「5分間踊りまくります」とあらかじめ告げられていたのも良かったと思う。「5分くらいなら出来る」との安心感があり、自分の体力の最大限まで発揮して踊り狂うことができた。何もかも忘れて、自分自身になりきることができた。不自由感のないすばらしい即興を体感することができた。

静から動への転換が大きい、メリハリのあるセッションであり、からだを通して自己知覚・他者知覚・自己受容・他者受容を体験しつつ、同時にカラッとした解放感を味わうことができた。このような深みのあるすばらしいセッションを運営できる吉村さんの力量に感嘆し、背景となっているナタリー・ロジャースの表現アートセラピーの理論や方法にも触れてみたいと思った。(渡辺明日香)

吉村先生のWSの参加は大阪大会と北海道大会あわせて2回目になります。一日目の最終のWSであり、少々疲れ気味での参加でした。

体ほぐしの後、だるさを抱えながら会場内を先生の指示通りに自分のペースで好きなように歩き出す。

突然、「新幹線に間に合わない！走って！」の言葉に思わずスイッチが入った！乗り遅れてはいけないそれぞれがぶつからないように目的のホームに向かう。一瞬にして集中のスイッチが入り、何かバラバラしていた雰囲気が一瞬とひとつになりました。その後は気になる人と二人組みになりますが、自然と考えることも無く、目の合った人と組み「人間彫刻」開始！

ひとりが製作者、もう一人が作られる素材。「開く」と「閉じる」と「今の自分」の3つの彫刻を作る。言葉での指示ではなく相手に触れながら形を作っていく、イメージに触れながら伝えていく作業は、なかなかむづかしい

伝え手の習慣や癖がかなりであることを実感。作られている時にはありのままの相手を受け入れるという感覚を味わいました。言葉が無い分、善いも悪いもすべてダイレクトに伝わるので苦しい場面もありました。これに関しては沈黙でも交流があるのでお互いが影響し合っただと感じました。うわぁーと開いて、ぎゅーっと閉じた後に「今の自分」と言われた時「ポン！」という感じて自分のイメージ出たこと自体が驚きでした。体を動かして表現する醍醐味を味わった感じの一瞬でした。続いて、サルサとサンバの時間となりまずは変身タイム！7分間でサンバ羽根を作り、コスチュームに着替えますの指示。羽根作りに興味を示した人が多く、ビニールのかさ袋で羽根作り！自分で作った羽根を背負い、コスチュームを思い思いに身に付け気合充分でステップの練習です。やはりここでも<集中>ということが意識されていたように感じます。7分間でできるのかなと思いながらもあっという間に完成しました。ステップの練習後、いよいよ曲がかかり、会場内は集中のエネルギーと熱気でいっぱいになり、先生のリードのもとに踊りが始まりました。ステップが繰り返されれば繰り返されるほど、心が前へ前へという感じになり自分を主張したいという思いがはっきりと出てくるのを強く感じました。日常とはまったく違った空間で、安心が保障されているからこそ起きた事ではないかと感じました。羽根

とコスチュームをはずした後に、心地良い疲労感と一緒に、ゆるやかに現実に戻る自分を味わいながら床に寝転び開放感を満喫！！その後、シェアリングの時間で自分の中で多くの気づきに出会います。動と静のバランスということ、そして転換と集中、考えることよりも動くことの大切さ、非日常での安心の場での開放の大切さ、安心の場の保障があり、心地良い集中の中で自然と自分を客観的に感じ、豊かな気づきをと前向きな自分に出会えた時間でした。とても良い余韻として、体に今もまだ残っています。またの出会いを楽しみにしています。ありがとうございました。(秋本早苗)

北島順子「ムーブメントを用いたリラクゼーションプログラムの試み ～ライフキャリアデザイン教育の導入～」

「ライフキャリアデザイン教育」への導入という、「治療」を目的としないムーブメントのプログラムとして、大変興味深くワーク発表に参加させていただいた。

私自身、ダンスムーブメントを“予防”などのグラウンドで発展させていきたいという希望もあり、人間形成の段階を経ていく教育現場での導入は、予防を行なうことに繋がると考えている。今回のワークでは簡単に身体ほぐしをした後、各個人の「価値」についてキーワードをピックアップしてゆく作業と、その単語を優先順位とワースト順位に分けるという作業を行ない、自分の価値についてパートナーとのシェアリングが行なわれた。実際、自分の価値感を単語で抜き出すという行程は、改めて自分自身への気づきを容易にできたように思う。又、シェアリングしたパートナーの抜き出した単語や、そのイメージに対する実際の言葉には年齢やバックグラウンド、性格などが手に取るように“感じる”ことができたことは新鮮であった。あくまで“感じる”のであり、“理解した”ことではないのだが、それがイメージとなり、その後のムーブメントに即興的動きを多様に導き出す事ができたような気がする。このような自分や他人の価値感を改めて単語より発見することで、ライフキャリアデザインを容易に進め行くことができる。今後、生涯教育の現場や、中学・高校での方法論についてどのように進められるのか大変興味深い。(平山久美)

キャリアデザインとダンスセラピーがどのように結びつくのだろうと、その意外性に惹かれて受講させていただきました。2日目朝一番のクラスで、ちょっとだるいからだと頭が、床に寝そべりゆったりとした動きでほぐれてきた頃、二人組みになり、部屋の両端からお手玉やイメージのボールを投げあうワークに移りました。講師のアドバイスで変化を加え、それぞれのペアの想像力豊かな動きに歓声が上がっていました。

それからが本番！？各自「価値ワークシート」に向かいます。数十個の単語の中から「とても大切」ベスト5、「あまり大切でない」ワースト5を選んで記入していきます。面白いアイデアだと思ったのが、ポストイットのような張替え可能なメモに書いて張っていくところです。あれこれ並べ替え、先ほどの二人組みで見せ合い、相手に説明していきます。ここで初めて「ムーブメントを用いた」意図が理解できた気がしました。私がペアになった方は、たまたまか、ダンスセラピーという共通項のためか、近い価値観を選んでいました。これが一般学生や多様な要素の集団であったら、正反対の人もいるかもしれません。そのとき、前半のワークで受容しやすい関係ができていると、相反する意見にも無関心や拒絶ではなく、聞いてみよう、理解したいという姿勢が自然と生まれます。また、キャリアデザインという知識者からの上から下への指導や、適正テストなど外からの指標が一般的ですが、対等な他者とのかわりを通して自ら発見していくという方法に新鮮な驚きを感じました。短い時間でしたが、ペアの方と一緒に自分の関心のある話題について話すことができ、楽しく深みのある体験でした。有難うございました。(増山尚美)

貴船恵子「出会いと別れがあなたにもたらすもの」

始めに貴船さんは帽子をかぶったままでワークを進めることを断っておられました。その理由としては普段、参加者の方々が自分の顔色をうかがうようなことがあるので、ということでした。目深にかぶった帽子によって確かに貴船さんの顔色を窺うことはできなくなりました。ところが、帽子によって消えたのは表情だけではなくたのです。帽子によって表情を消した貴船さんの存在感は小さく、ま

るで黒子のようでした。あれは意図的に自分の存在を消すことで参加者のテンションとは異なる静かな目線でその場を見守っていらっしやったのでしょうか。ただ、そんな貴船さんと自分の間に距離を感じて少し寂しい気がすることもありましたが、セラピストとしてどうあるべきかということもあるのかもしれませんが、私の単純な感想としてはもっと一緒に踊りたかったというのが本音です。ワークの内容に関しては最後のほうで肩に手を置きしばらく暖かさを感じるというワークは、あの順番もってきたからこそ感じられる深みをもっていたように思います。私がペアを組んだ方は何か非常に思い入れが深かったようで、優しい手のぬくもりとともに熱いものがこみ上げてきてこらえるのに苦労しました。とても充実したワークショップ体験でした。ありがとうございます。(大藪もも)

はじめに、今回は時間が少ないのでほとんどを「出会い」の方にかけてあるということが説明されました。私は「別れる」ということの擬似的な体験から何かを発見したいと思って参加したので残念でしたが、無理に詰め込んでしっかり味わえないようなものにしないという誠実な選択だと感じました。

導入の部分では、皆で手をつないで輪になりその場でジャンプしたり、真ん中に集まっては広がったり右に左に回ったりというのをやりました。テンポよく移り変わって行くのがちょうど心地良く、やりにくいステップがあった時にもう一度別のステップをやってから再度やったらすっと動けたので、動きの流れをつかんでいるファシリテーターの方だなあと感じました。また、私はエネルギーというものに敏感なたちなのですが、最初に手をつないだ時にぶあーっと空気が走るような感覚があって、まずそれでこのワークを楽しめるという想いが生まれたくらい、気持ち良かったです。それは参加者のあったまり具合とかもあったと思うのですが、貴船さんの持つ雰囲気の影響もあったのではないのでしょうか。

本編の「出会い」の場面は、部屋の隅から向かい合って列を作りチャペルで新郎新婦を迎えるような状態で並んで、列の先頭の人同士が「出会って」二人で部屋の真ん中に向かって進んで行く、というスタイルで進行しました。出会った二人がその“ヴァージンロード”をとにかく何らかの動きで進んで

行くというもので、曲もかかり順次変わって行く中で、時に舞踏会のワルツのようだったりちょっとした芝居のようだったり各ペアの持つものによって違ったダンスが展開して行きました。ずっと同じに進むと「次はあの人だ」と意識してしまう、ということも考えて声がかかり一組の人数が三人・四人と増えていき、最後はにぎやかに終わるという感じだったと思います。

始まる前のお話しの中で「パターン」ということを言われていて（別れ方に特定のパターンがある、とか）その一個人のクセのようなものや目の前の人との相性ということは、確かにその目まぐるしく変わる瞬間の出会いにも出だし（むしろ瞬間で考える暇が無いくらいだからこそ出たのかも知れませんが）、「この人に対してどうしていこう」と踏みとどまる感じの自分とか「こうしてしまう」という自分のパターンに気づいた後、その人とのパターンを変えて違うように出会い直せるセッティングがあると良かったかな、自分が意識するだけじゃなかなか変わらないなあ、と感じましたので。速く流れて行くのにとまどっている方もいらっしやったようですが、私自身は、あまりゆっくりやってしまうと深いところに入ってしまって感情が吹き出したりして後のフォローが必要な質のものになるかも知れないから、今回のようなケースでさらっとやってよかったですと思いました。逆に言うと、じっくりやればサイコドラマのような展開も出来る手法かな、と感じました。そういう意味では、その後場に座って「誰かと家族をつくって下さい」というお題が出されたときに“家族”というのに反応して日常のことを思い出して引きずったりしてしまった方が何人かいて、シェアリングの時に発言されていたので、そういったところにも十分な配慮が必要なんだなあと考えを深める場面もありました。やはり、セラピーの場では何げない言葉も重要な意味を持ちますよね。最後に一機会があれば、お年寄りに関わってらっしゃる貴船さんが「別れ」をどのようにワークしているのか知りたいと思いました。(阿部泰子)

竹内実花「精神科ディケアにおけるリラクゼーションを中心としたダンスセラピーの試み」

「のびると良いな～・・・」「やれやれ・・・」

竹内先生の発するフレーズの中で私が大好きな

言葉です。家でストレッチする時にもつぶやいてはいたけれど、やっぱりホンモノの「やれやれ」は、違う！ 竹内先生の声は私の細胞の隅々にまで優しく染みわたり、安心感が広がります。のんびり座って体を緩めている時、窓の外にはゆったりと雲が流れ、心地良い風が吹いていて、そこへ竹内先生の口から発せられている柔らかい音の波動……。既にかかなりのシアワセ度でした。そして床に横たわってのんびりしている時、腰が痛くなったので姿勢を変えて腰をなでていたら、竹内先生がそっとそっと私の手をはずし、先生の手を腰に当ててくださいました。あ～なんて優しくやわらかい。気持ち良い～シアワセ～……。しばらくして先生が少しずつ少しずつ手を離していった時は本当に名残惜しかったです。そんなこんなでココロもカラダもふにゃらかして起き上がった時、教室全体の空気もふにゃらかして呼吸がしやすく、さらにシアワセな気持ちになりました。

そして今回、新たに好きなフレーズが増えました。「頑張るのも良いけど、今は頑張らなくて良いです……」。まるで「頑張るのは駄目な事」という位に「頑張らないで」という言葉が世間で言い尽くされているこの頃、とても斬新に感じました。

先生の言葉のかけ方、空気の作り方、進行の仕方。ワークショップは内容も勿論大切だけど、やはり一番大切なのは、セラピストの人柄なのかもしれないとしみじみ思いました。また来年も楽しみにしています。出来れば次回はリラクゼーションしたあと、そのふにゃらかなココロとカラダで踊る事が出来たら、もっともっとシアワセかもしれないなあ～と思います。ありがとうございました。(松永のおこ)

皆さんは、ごく当たり前に過ぎていく生活の中でリラックスしていると感じられる時間を持つことができますか？ 私はこのセッションで、“本当にリラックスした”時間を味わい、これまでは本当のリラックスを知らずに過ごしてきたのだという事をあらためて実感しました。

セッションの会場は、日本ダンスセラピー大会会場というある種張り詰めた状況の中で、すでにのんびりとしたやさしい空気に満ちていました。セッションの冒頭、いやだなあと感じることはしなくてもよいこと、近くの人とカラダがぶつかることがあっても「ああ、隣に人がいるなあ…」と感じてみることなどが説明されていきました。そのことは、この

時間の中でどのようなことがおころうと、どのような状況になろうと、そのときの自らのからだの声に沿ってこの場に在ることを許されて一保障されて一いることを感じさせてくれました。

竹内さんのやわらかくゆったりとした声がかからだの中にじんわりと染み入り、決して眠っているわけではないのですが、からだ泥のように、まるで床に溶け込んでいくような感覚を味わいながら、呼吸が深くなっていくのを実感し、本当のリラックスへの道程を竹内さんに丁寧に導かれているようでした。

セッションの最中は、ずっとこのままでいられたらいいのに…と感じているのですが、終了したときには静かな、開始前にはなかった確かな力が漲っていることに気付きました。セッションの翌日は、これまでには体験のない気持ちよいかからだを味わいましたが、日常の生活がからだを元に戻してしまいました。しかし、あの心地よさを体験したからだは、ほどなく竹内さんのセッションを求めていくだろうと思っています。

最後に、このセッションは現在精神科のデイケアで実践されているそうですが、精神科のみならず、慢性疾患とともに生活している方々などはもちろん、ケアする側のスタッフが体験できるようになることを看護に携わる立場としては願ってやみません。そのことがケアの質を高めることは間違いないと確信しています。(塩谷玲子)

照屋洋「こころとからだのレッスン ーいま、子供たちのからだに起こっていること」

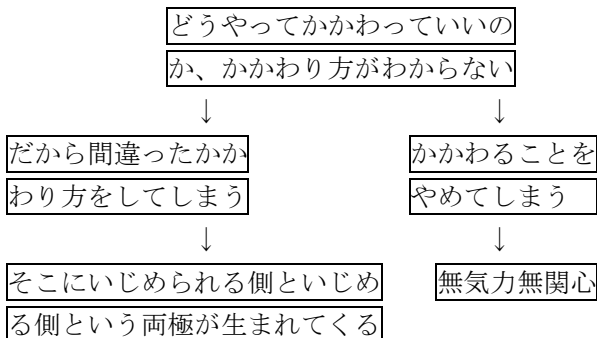
大切な時間をありがとうございました。いくつかのワークを紹介していただいた中でも、小石のワークはとても印象的で、「みんなちがってみんないい」を身をもって感じられたこと、とてもよかったです。

穏やかな先生の雰囲気と、実際に公立中学校の先生をしていらっしゃるということで、ぜひ一度ワークショップを受けてみたいと思っていました。なんといっても、現実の中学生と向き合っておられる先生の取り組みは、私にとってはいま一番の関心事なのです。

我が家にも中学生の子供がいて、やはり教室で実際に起こっている問題やまじかに見えてくる子供

たちの姿は、とても違和感があるのです。

本当にいまの子供たちを見ていると、他人とかわることができなくなっているのを感じずにはいられません。



こんな縮図を描いてしまっているのではないでしょうか。

今回、先生のテーマの一つでもあった「ふれる」ということ。からだにふれるという表面的なふれるから、こころにもふれるという内面的なふれるまで、——そう、周りの人の気持ちを考えながら進んでいけたら、どんなにかすばらしいことでしょう。子供たちに限らず、身近な人にふれられる喜びと他人にふれられる不安は、こころが干上がりそうになったしまっている現代においては、私たち大人にも当てはまることです。何の疑いも無く、他人とのふれあいを“こちよい”“あたたかい”と感じることは本当に——無意識のうちに「自己防衛的に」固まってしまっている心——の緊張を解きほぐしてくれるものなのに違いありません。

先生のワークを通して感じたこと、考えたこと・・・セラピーというと、どうしても弱者の側のケアが多く感じられがちですが、逆に加圧している側（ある意味こちらが弱者なのでしょう）に回ってしまっている子供たちの心をほぐして上げられたらと強く思いました。幸い、中学生の子供がいるという環境もありますので、なんとかこういう取り組みをしていけたらと願ってやみません。（野口實華）

高見知英美・鈴木良枝「ダンスに何ができるか。小金井病院での実践報告」

発表抄録を拝見し、私自身の活動と共感するもの

があり、興味深く参加させていただきました。

まず、病院におけるダンスセラピーの導入から現在までのプログラム、そこに至るまでの経過をまとめたプリントをいただき、入院者の移り変わりと共に、チームで様々なプログラムを練り、工夫されていることを詳しく知ることができました。

セッションでは、テンポの良い曲に合わせてのストレッチ運動、リズム遊び、童謡などの曲に合わせてのダンス等が紹介されましたが、先生のハキハキとした話し方や動きに巧く乗せていただき、知らないうちに腹の底から大声で笑っている自分に驚きました。

最後は曲に合わせてのフリーダンスでした。誰からか始めた参加者同士がお互いに背中など体の一部を「キヤーキヤー」言いながら、あるいは無言で触れ合わせていましたが、大会最後のセッションに相応しく、「今年の大会もお疲れ様でした。また来年お会いしましょうね！」と体同士であいさつをしているように感じられたのが印象的でした。（鈴木真美）

鎮目久美子、林信恵「ボディートーク実践における心理的効果について」
後藤美智子「マリアン・チェイスによるダンスセラピー実践— 実践の中で大切にされた考えとは何か—」

鎮目久美子さんの発表は、集団による比較的長期（11週間）のボディートーク実践が不安傾向や心身に対する認知能力にどのような影響を及ぼすかについて報告するものでした。実践による意識変化（内観能力）は「ふれあい・息の因子」「筋感覚因子」「気づきの因子」の構造を持つこと、実践後に特性不安及び状態不安得点が減少すること、「心の体表現語」の認知度が向上することが報告されました。「筋感覚因子」は「思うように体が動かさなかった」「力みがあった」「緊張がした」のような項目で構成されていましたが、この因子が個人特性の影響を受けるものなのかどうか、或いはもっと長期間の実践を終えた後にはどのように変化するのか、といった点に興味を持ちました。フロアからは、「心の体表現語」の認知度の評価法について質問がありました。ボディートーク独自の評価指標で、体の状態についての知識の有無を問うもの、との説明でし

たが、その状態を実感として味わえるかどうかを尋ねる試みもおもしろいのではないかと思います。

後藤美智子さんは、M. チェイスの初期遺稿を対象を絞り、彼女が実践の中で大切に考えた考えについて、①コミュニケーションとしてダンスを位置づけること ②職業的威信において患者と等しく一人の人間として参加すること ③患者の「安全保障感」を確保すること ④見ていることも参加することという理解 ⑤セッション中の患者の自由な行動を保障すること、の5点を挙げて報告されました。近年、他者の動作に視覚的に反応するミラーニューロンの存在が明らかになり、他者の動きを見つめることが既に人と人が相互に関わりを持つとコミュニケーションの始まりだという感を強めている私にとって、④の観点は興味深いものでした。フロアからは、チェイスの理論や実践を踏まえて、発表者自身がどのようなセッションを展開しておられるのか（或いは展開しようとしているのか）について質問がありました。発表者は現在論文執筆中で、実践を控えておられるとのことでしたので、次の機会には新たな知見を交えた報告をして頂けるのではないかと思います。

質疑応答とは別に設けられていたディスカッションは、フロア、演者の別なく、また演題とは離れた意見交換ができる貴重な時間です。WSと口頭発表のどちらもが活気づくことによって、この学会がさらに充実したものになるのではないかと感じました。（座長 成瀬九美）

第3回研修講座の報告

大沼小雪

2005年7月30日、31日、戸山サンライズ（東京）において、第3回目の講座が開催されました。受講者は28名でした。3回目は精神身体医学論を中心に16時間と長時間に渡る講義でしたが、素晴らしい講師にも恵まれ、また熱心な受講者に支えられ、充実した2日間でした。今回はサイコドラマの実際も体験することができ、緊張もありましたが、ダンスセラピストを目指す人たちならではのすばらしい展開になりました。プログラムは予定通りに進行しました。下にプログラムを示します。

参加者による講義の感想の一部を紹介します。

小川 恵先生：全体的に具体的でかつ細やかで、明確な説明でわかりやすかった。ひとつひとつ積み重ねての講義はあらゆることへの創造性と客観性を呼び起こしてもらえた。講義自体が心地良く、セラピーのようで、多くの気づきを得られた。

障害は人が決めるのではないということ、自分で決めるということ。共感相手の気持ちを支持する

ことではないということ。相手の気持ちはどうか、に気づき、そこで自分の中に起こる気持ちを理解するという。治療同盟は不安をひろって呼吸を合わせていくということ。アセスメントはその人の何が健康であるか、その部分を今後に向けて活用して行こうとすること。などが印象に残った。

増野 肇先生：先生自身の笑いのセンスがちりばめられ、内容を数倍も理解しやすくしていただいた。森田療法では、不安、恐怖の裏にはより良く生きたいという欲望があるということを学んだ

サイコドラマの体験は、今までにない体験でダイナミックでかつ細やかで、気づき、自分への集中が促され、「ひとりじゃないよ、一緒だよ」と感じ、涙がこみ上げてきた。先生の人柄と経験の豊かさが伝わってきた。またじっくりやりたい。サイコドラマは監督がかなり高度な技術が必要かなと思った。イメージの世界は本当に豊かなものがある。ただ、集団の場合は、それぞれのイメージの違いがあり、瞬間的にどのように導いていくのが難しいと思った。サイコドラマはダンスセラピーの自由さに比較するとかけるエネルギーの割合が高く感じた。

尾久裕紀先生：わかりやすく、面白かった。力動

日	時	科 目	担 当 講 師 案
7 月 30 日	9:30~11:30 (2 H)	臨床心理学総論 (1) 基礎知識 (治療者とクライアントの関係など)	小川 恵 (淑徳大学)
	11:30~12:30 (1 H)	臨床心理学総論 (2) アセスメントを中心に	小川 恵
	13:15~14:15 (1 H)	臨床心理学各論 (1) 精神療法 1 森田療法	増野 肇 (日本ルーテル学院大学)
	14:15~16:15 (2 H)	臨床心理学各論 (2) 精神療法 2 サイコドラマ	増野 肇
	16:15~18:15 (2 H)	臨床心理学各論 (3) 力動的な心理療法の理論	尾久裕紀 (本協会理事)
7 月 31 日	9:15~10:15 (1 H)	精神医学総論 症状や病気の分類	大野芳義 (本協会理事)
	10:15~12:15 (2 H)	精神医学各論 (1) 躁うつ病・小児精神	大野芳義
	13:00~15:00 (2 H)	精神医学各論 (2) 統合失調症 (社会復帰含む)	浅野弘毅 (東北福祉大学)
	15:00~16:00 (1 H)	精神医学各論 (3) 認知症 (老人性痴呆)	浅野弘毅
	16:00~18:00 (2 H)	精神医学各論 (4) 人格障害・神経症	尾久裕紀

的心理療法は、今後自分自身の現場に必要不可欠。
1つ1つの理論を具体的に、ダンスセラピーをする時には、どのようにしたら良いかを付け加えて下さり、場面を想定しながら講義を聞くことができた。転移・逆転移のことが少しわかったのと、抵抗ということを知ったのは収穫だった。抵抗の扱い方がとても重要なのではないか。過去の体験の影響という視点と、過去を探るのではなく、今という視点とがあり、その時々状況によってどちらも大切だと思った。薬によって効く部分と、ダンスセラピーによって効く部分が違い、その相互作用によって脳の活性化が計られるのは、というお話はとても興味深かった。脳の活性化との関連はとても興味があるので、もっと理解を深めたいと思った。

大野芳義先生：かなり細かな事例をたくさん挙げていただいたので、わかりやすかった。病院の現実をわかりやすく解説していただいた。病院の評価の話など、興味深かった。薬の話が具体的で役立った。盛りだくさんの項目だったので、もっと時間をかけて詳しく学びたいと思った。

総論では、精神疾患には、心・脳のみに視線が向けられているが、一般身体疾患との関連も考える必要があることがわかった。精神疾患と言っても、かなり幅があるので、それぞれの症状や他の症状との関連など、きちんと把握していることが大切だと思った。

小児精神は非常に興味深かった。

浅野弘毅先生：お話がとても上手で、引き込まれてしまった。とてもわかりやすく楽しい講義だった。先生の観察力や物の見方が素晴らしい。人付き合いと遊び心、とても大切であることを実感。希望をいただいた。専門的である意味深刻な内容を、軽やかに楽しくわかりやすい言葉での講義だった。リハビリテーションの語源にキリスト教の影響を受けていることを知った。一般社会に戻るといふ深い意味を知った。統合失調症は誰でもかかり、また回復するということが理解が深まった。服薬の心理について初めて気づいた。「薬も周りの中で総合して効く」ということに感動した。

人は人と交じりたい、人は孤独では生きられない、という認知症のケアについては、心にぐっときた。認知症の家族についての深い理解に感銘を受けた。

以上、かいつまんで紹介しましたが、どの講義も充実していたことがお分かりいただけたと思います。また、この講義を聞きたいという声も聞かれました。この精神身体医学講座も、繰り返して受講することにより、さらに深まっていくものと思います。講師の先生方に心より御礼申し上げます。そして受講者の皆様、長時間本当にお疲れ様でした。また次回にご期待下さい。

第4回研修講座のお知らせ

2006年が明けました。皆様におかれましては、本年も輝かしいご活躍の年になりますようにお祈り申しあげます。さて、2004年から始めた研修講座も3回行い、資格認定に必要な単位を一通り修了することができました。今回は、第1回目と同様の「ダンスセラピー基礎論」(12単位)を行います。第1回目を受講できなかった方を優先的に受付ますが、再履修して深めたい方も空きがある場合受け付けます。今回は、場所を変えての開講となります。定員になり次第締め切りますので、どうぞお早めにお申込み下さいますようご案内申し上げます。

平成18年1月

日本ダンス・セラピー協会 会長 英二三枝子
 JADTA 資格認定委員会 委員長 平井タカネ
 第4回研修講座実行委員会 委員長 大沼小雪
 日本ダンス・セラピー協会 事務局長 町田章一

開催日 平成18年2月25日(土)～26日(日)
 場所 東京教育専門学校 第二校舎 (JR 山手線高田馬場駅より徒歩5分)

参加定員 30名
 参加費 会員 25,000円 非会員 30,000円
 (2日間のお弁当代を含みます)

申込締切 平成18年2月11日

申込み問い合わせ先 大沼小雪

メール koyukion@jadta.org

電話またはメールで確認の上、お申し込み下さい。

申し込みは、下記申込書に記入し、郵送で下記住所まで

(お申込みの順に折り返し参加費振込みのご案内を差し上げます)

ダンスセラピー 第4回講習会申込書

氏名	年齢	歳	男・女	会員 非会員
連絡先住所	自宅・勤務先 (○をつける) 〒			
電話	TEL	Fax		
E-mail	@			
職業及び所属				
講座参加歴	1回目参加 ・ 2回目参加 ・ 3回目参加 ・ 初めて (該当するものに○をつけて下さい)			
懇親会希望の有無 (参加費 1,000円程度)	参加する ・ 参加しない	お弁当 <u>不要の方</u> のみチェック		25日 ・ 26日

第4回研修講座プログラム

日時：平成18年2月25日、26日

日	時	科 目	担 当 講 師
2 月 25 日 土 曜 日	9:00～ 9:20～9:30	受付 開講式オリエンテーション	
	9:30～10:00	ウォーミングアップ	
	10:10～12:10	倫理と法規 医療法規の基礎知識	山中克己
	12:10～13:00	昼食	
	13:00～15:00	ダンスセラピー概論Ⅱ（必修） 身体と表現	松原 豊
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～17:15	ダンスセラピー概論Ⅱ（必修） ダンスの精神療法機能	尾久裕紀
	17:30～18:00	みんなで体を動かしましょう	
	18:30～20:30	懇 親 会	
2 月 26 日 日 曜 日	8:30～	受付	
	8:45～9:15	ウォーミングアップ	
	9:30～11:30	ダンスセラピー概論Ⅰ（必修） ダンスセラピーの歴史とその系譜	町田章一
	11:30～12:20	昼食	
	12:20～14:20	ダンスセラピー方法論Ⅰ アメリカの著名なダンスセラピストの理論と技法	崎山ゆかり
	14:20～14:35	休憩	
	14:35～16:35	ダンスセラピー概論Ⅰ（必修） 現代医療における位置づけと適用	大沼小雪
	16:45～17:00	閉講式 認定証授与	

- * 参加者のご都合で当日キャンセルの場合は、受講料はお返しできませんので予めご了承下さい。
- * ウォーミングアップの時間を作りましたので、動ける服装でご参加下さい。
- * 懇親会は1日目の夜に会場近くのお店で行う予定です。

お知らせ



去る平成17年11月26日(土)、京都文教大学で開催された第28回日本芸術療法学会にて、当協会の平井タカネ副会長(名古屋学芸大学教授・奈良女子大学名誉教授)が長年のダンスセラピー分野での貢献が認められ、日本芸術療法学会賞を受賞されました。ダンスセラピー分野では学会初の受賞です。会員の皆様にご報告させていただきます。(写真は大森健一学会長より受賞の楯と記念品を受け取る様子です)

JADTA 研究会報告

第130回 H17年7月24日(日) 9:30-12am

場所: 池袋 芸術劇場小会議室(以下同)

参加者: 松村汝京、町田章一、大野芳義、大沼小雪、後藤美智子

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会

町田章一: 「第1章 マリアン・チェイス」(5)

第131回 H17年9月23日(金:祝) 9:30-12am

参加者: 松村汝京、町田章一、大野芳義、後藤美智子

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会

町田章一: 「第1章 マリアン・チェイス」(6)

第132回 H17年10月23日(日) 9:30-12am

参加者: 町田章一、大野芳義、大沼小雪、後藤美智子

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会

町田章一: 「第1章 マリアン・チェイス」(7)

第133回 H17年11月23日(水:祝) 9:30-12am

参加者: 熊谷梢、町田章一、大沼小雪、後藤美智子

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会

町田章一: 「第1章 マリアン・チェイス」(8)

大沼小雪: 芸術療法学会原稿予演会

ADTA 年次大会(ナッシュビル)参加報告等

第134回 H17年12月4日(日) 9:30-12am

参加者: 町田章一、大野芳義、大沼小雪、後藤美智子

芸術療法学会発表報告

次回 JADTA 福島大会会議(1)

Dance/Movement Therapy A Healing Art の抄読会

町田章一: 「第2章 ブランチェ・エヴァン」(1)

インフォメーション

編集部より

●記事については崎山へ/ワークショップ等の情報は星野へ/会についての問合せは町田へ/入会案内や資料請求は事務局へ●次号締切 2006年3月末、発行4月末予定…●新年は新たな道の始まり(ゆ)/めくるめく 変わる世界に 初日の出(章)/娘が小学生になるなんて思ってもみなかったのに、もう目前(仁)

JADTA News No. 69 2006年1・2・3月号

発行日: 2006年1月31日

編集部:

崎山ゆかり 星野仁 町田章一

ホームページ: <http://www.jadta.org>

発行: 日本ダンス・セラピー協会

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西 5-10-32

東京福祉専門学校内 JADTA 事務局

tel/fax 03-5605-8283 jadta@tcw.ac.jp